

令和6年度の活動報告

気象庁 大気海洋部 気候情報課

令和6年度の活動報告

①分析検討会(第1回)の開催及び報道発表

②検討会分析結果を発展させた論文の発表

③分析ツールの拡充

④ENSO/IODが日本の気候に与える影響に関する調査

⑤毎月の気候系診断会議

令和6年度の活動報告

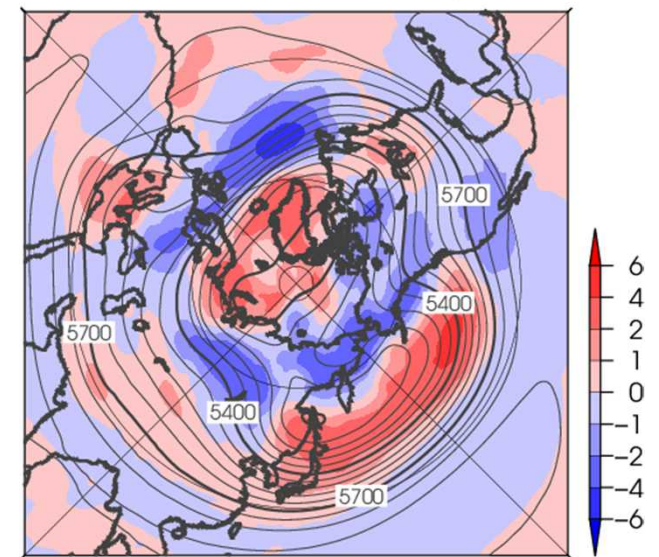
②検討会分析結果を発展させた論文の発表

- ✓ 気象庁と検討会委員で2023年夏の日本近海の高海面水温が日本の天候に与える影響を論文化し、7/19に報道発表。
- ✓ 「海洋熱波」の影響が広く報道された。
- ✓ 2024年夏も類似の現象が継続していたことから、分析検討に活かした。

③分析ツールの拡充

- ✓ ①低気圧活動の監視
②寒冷渦指標
③可降水量マップ
を、新たに異常気象の分析に活用。
- ✓ ①は北海道大学の稲津 作業部会委員、
②は新潟大学の本田 作業部会委員
及び三重大大学の春日氏から提供。

500hPa Lows Dec.2024(Anomaly)



< 寒冷渦指標の一例 >

500hPaにおけるAS+ 平年差 (2024年12月)

北日本の低温・多雪に関連：

北日本中心に寒冷渦が南下しやすかったことを示す